

神奈川県川崎市 「更なる気温上昇に備える検討ワークショップ」

- 環境局（環境総合研究所）が中心となって『更なる気温上昇に備える検討ワークショップ』を2回開催
講義（①改正気候変動適応法の概要、②川崎市内の熱中症発生状況）30分、ワークショップ90分の構成
- ・令和7年1月27日：健康福祉局の職員対象、25名参加
- ・令和7年1月31日：区職員対象、危機管理本部や消防局含め17名参加

第1回

更なる気温上昇に備える 検討ワークショップ

令和7年1月27日（月）
14:30～16:30

シナリオ

2 気温上昇が進んだかわさき

20XX年7月

- ・梅雨明けから20日は連続で熱中症警戒アラートが発令されている。
- ・熱中症による救急搬送は過去最高レベルとなり、既に救急車はパンク状態。
- ・国は連日高温を警戒し、不要不急の外出を促している。

8月10日

- ・3日間に連続で熱中症警戒アラートの発令が継続されている。
- ・本市は、暑い日も外出を促すため、熱中症特別警戒アラートの発表に備えるよう臨時発表がなされた。

8月12日 午後

- ・13日の熱中症特別警戒アラートが発表された。
- ・本市は、暑い日も、市民に対して不要不急の外出を促し、暑い日でも外出を促すようアラートを発令。
- ・市役所では、市民が暑い日でも外出を促すようアラートを発令。



▲第2回ワークショップの様子

テーマ 4～5名のグループに分かれ、3つのテーマに対し、それぞれ議論15分程度＋発表を行う。

テーマ 1

暑さから避難できる場所
(いわゆるクーリングシェルター)は、
どのような施設が適切か。
また、どのような機能が必要か。

テーマ 2

熱中症特別警戒アラートが
発表される様な状況の時、
各業務で影響が出るものは
どのような事が考えられるか。

テーマ 3

熱中症特別警戒アラートの発表に備え、
今からできる取り組みはどのようなことがあるか。

■苦勞した点

- ・年度末の繁忙期に、数多くの職員に参加してもらうべく、担当課長会議の場や個別訪問による依頼等、何度も繰り返しお願いをして、気温上昇への備えの重要性を理解してもらうよう努めた。

■工夫した点

- ・今回は、係長級以下を中心とした「現場」第一線の職員に声をかけた。
- ・ワークショップで話し合われた意見や課題などは、今後の気候変動適応への施策に反映させるとともに、今夏の熱中症対策にも活かしていく。